

発行：海外養殖魚研究会

連絡先：〒102 東京都千代田区麹町4-5

第7 麹町ビル555 号

（株）国際水産技術開発内

Tel. 03-234-8847

第33回海外養殖魚研究会が、昭和59年10月25日に、国際協力総合研修所会議室において行なわれました。今回は、JICA主催の講演会を、当研究会と、新魚種開発協会が後援したものです。演者は、タイ国 Pathum Thani水産試験場長の Mr. Panu Tavarutmaneegulで、氏は養殖事情視察のため日本を訪れていました。通訳はJICA 神奈川国際水産研修センターの坂本隆氏にやっていただきました。

[テーマ・ タイ国の水産事情とSand goby の養殖について。]

1. タイ国水産業と養殖業の概要

タイ国の総漁獲量は、1968年に110万トンだったのが、1978年には207万トンとなり、10年間で2倍弱ののびを見せている。総漁獲量のうち約90%は海面漁業によるものである。水産物輸出額は、1968年には約1600万ドルだったものが、1978年には2億5400万ドルになったが、それ以後は減少し始めている。内水面の総漁獲高は、1963年には全体の20-30%であったが、現在は10%に減少している。

養殖生産量は4-5万トン(1978年)である。汽水養殖ではエビ Penaeus merguensis の養殖が盛んで1970年には700トンだった生産量が、1978年には6400トンにまで増加している。淡水養殖の主要魚種は、Thai carp (Puntius gonionotus), Sepat Siam (Trichogaster pectoralis), Catfish (Pangasius pangasius), Snakehead (Ophi- cephalus striatus), Sand goby (Oxyeleotris marmoratus), Walking catfish (Clarias batrocephalus) である。その他、コイ、インドゴイ、ソウギョ、ハクレン、コクレンなども養殖されている。淡水養殖の問題点としては、輸送流通施設の不備、政府による金融的援助の不足、普及指導の遅れなどがあげられる。

2. Sand goby の種苗生産と養殖

Sand goby はほぼタイ全土に分布している肉食魚で、体重は1kg以上になる。市場サイズは200g以上で、タイ国内需要はほとんどなく、年間100-200トンの養殖魚がマレーシア、シンガポール、香港へ輸出されている。香港での市場価格は約2400円/kgである。

Pathum Thani水産試験場はバンコクの北80kmに位置し、敷地面積は38.4haである。用水はチャオブラヤ河から取水し、飼育施設としては素掘池(800-3200 m²) 84面、50トンタンク80面、6 トンタンク100 面、円形タンク43面を持っている。

Sand goby の種苗生産

親魚 : 素掘池で自然産卵させる。300-400gのものを雌雄比1 : 1で0.2-0.25尾/ m²収容。卵は粘着卵なので、スレートでつくった採卵床を設置する。産卵期は1~10月で、1尾当たり1~9万位産卵する。

ふ化 : 60ℓの水槽に採卵器に付着した卵をマラカイトグリーンで消毒したのち収容。28℃で48-72 時間でふ化する。ふ化率は90%以上。ふ化仔魚は、6日目に卵のうを吸収するので鶏卵に熱湯をかけ、これを60-80 ミクロンのメッシュでこしたものを与える。7日目には鶏卵と共にワムシ (Brachionus calyciflorus) を与え、8-10日目はワムシのみを与える。その後は、ミジンコ類やユスリカの幼虫などを与え、1ヶ月で全長1 cm以上に飼育する。生残率は20%である。

種苗生産 : 全長1.0 cmになった稚魚は50 m²のタンクに移し、魚肉、配合餌料、ユスリカの幼虫などを与え、3 cmに育てる。生残率は80%である。50 m²のタンクで 5,000-6,000尾の魚を飼育できる。

これらは次に、素掘池に移し、魚肉、配合餌料などを与えて、2~3ヶ月飼育し、全長7 cmの種苗として養魚家に1尾10円で販売する。

養成 : 種苗を素掘池に収容し、魚肉、ふすま、ビタミン、ミネラルなどを混ぜた配合餌料で飼育し、6~7ヶ月で100-400gに成長させる。

民間では、河川に浮網いけすを設置して養成を行なっているが、十分採算の採れる養殖である。

* 事務局に、当日の講演要旨 (JICA神奈川センター作成) の残部がありますので、ご希望の方はお知らせ下さい。お送りいたします。